

動物用医薬品
子宮注入剤・外用剤

動物用 イソジン®液 10%

(PVP-I 10%含有)

動物用イソジン液10%は、ポリビニルピロリドンとヨードとの錯化合物であるポビドンヨード(PVP-I)を有効成分とする水溶液です。

本剤は、ヨード本来の強力な殺菌作用を有し、しかも従来ヨード剤に比べ刺激性が軽減されています。

本剤は、子宮内膜炎の起因菌を速やかに殺菌するとともに、細菌に荒らされたあとの子宮内膜粘膜上皮の再生を促し修復を早めます。また、本剤は動物の外用殺菌剤としてもすぐれた効果を有します。

成分・分量

本剤は1 mL中に日局ポビドンヨード100mg(有効ヨウ素10mg)を含有します。

特 長

1. 本剤は、刺激作用が少なく、子宮粘膜組織に対して重篤な損傷障害を与えることがありません。
2. 本剤の主成分であるポビドンヨードは細菌、かび、酵母、スピロヘータ、ウイルス、原虫などに低濃度でも強力な殺菌作用を示し、耐性菌を作りません。
3. 本剤は、潜在性および顕在性の子宮粘膜炎症組織に対し、自律浄化作用を促進し患部の治癒修復力を高めますので回復が早く、牛の卵巣機能を改善します。
4. 本剤は、液剤ですから、子宮内注入操作は容易であり、また皮膚消毒薬としてもすぐれた効果を有します。

効能・効果

1. 畜産領域
乳頭の消毒
2. 家畜診療領域
 - (1) 細菌、糸状菌による皮膚感染症、外傷、手術部位の消毒
 - (2) 牛：カタル性・化膿性子宮内膜炎、鈍性発情
豚：カタル性・化膿性子宮内膜炎

用法・用量

1. 畜産領域
乳頭：搾乳後、ポビドンヨードとして2%(有効ヨウ素濃度0.2%)となる水溶液を適量乳頭に塗布又は噴霧する。
2. 家畜診療領域
 - (1) 皮膚患部、手術部位：ポビドンヨードとして2%(有効ヨウ素濃度0.2%)となる水溶液を適量患部又は手術部位に塗布又は噴霧する。
 - (2) 1回1頭当たりポビドンヨードとして2%(有効ヨウ素濃度0.2%)となる水溶液50mLを牛又は豚の子宮内に注入する。

使用上の注意

【一般的注意】

- (1) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 搾乳直前の乳房・乳頭の消毒は避けること。

【使用者に対する注意】

- (1) 本剤が眼に直接入らないように注意すること。
- (2) 万一、本剤が目に入った場合には、多量の水道水で洗った後、直ちに医師の診察を受けること。
- (3) 本剤を誤って飲んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- (4) アレルギー体質者等で、発赤、掻痒感等の過敏症状が現れた場合には、直ちに使用を中止すること。

【対象動物に対する注意】

1. 副作用
(1) 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
2. 適用上の注意
(1) 手術部位等の消毒に使用し、包帯をする場合は、通気性を十分考慮すること。

【取扱い上の注意】

- (1) 希釈液は、使用の都度調製すること。
- (2) 希釈液を調製する場合は、次のことに注意すること。
 - ・ 原液は、水で5倍に希釈して調製すること。
 - ・ 原液は、油脂や他の薬品類と直接接触させないこと。
 - ・ 鉄、亜鉛、ブリキ等の金属器具を腐食させることがあるので、プラスチック製又はステンレス製の容器等で調製すること。
 - ・ 調製に使用する容器は、予め十分に水洗いしておくこと。
- (3) 原液及び濃厚液が、眼、飲食物、飼料、被服、幼児のおもちゃ等に直接かからないように注意すること。万一、眼に付着した場合には、水でよく洗うこと。
- (4) 他の殺虫剤や消毒剤と混用しないこと。
- (5) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (6) 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

【保管上の注意】

- (1) 幼児の手の届かない暗所に保管すること。
- (2) 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- (3) 原液及び希釈液を誤飲（誤食及び誤飲）しないように注意すること。また、食品用の容器に小分けして使用又は保管しないこと。

取扱い上の注意

1. 貯 法 室温保存
2. 有効期間 使用期限はラベルに記載

包 装

動物用イソジン液10%

2L・5L入

C11G1 C01



製造販売元

ムンディファーマ株式会社
東京都港区港南2-15-1